



県職業訓練生体験発表で最優秀賞
塩原 貴浩さん・33歳
田口町

後世に残る茶室や茶庭を造りたい

先月の21日に行われた県職業訓練生体験発表会で最優秀賞に輝いた。題は「庭師、建築を学ぶ」。庭師でありながら、なぜ建築を学ばなくてはならないかという内容だ。

「京都へ修行に出たんです。その景観の美しさ、特に桂離宮の建物と庭園の荘厳な姿に感動しました」

京都で暮らした5年間、その文化や歴史に直接触れることができ、毎日が発見の連続だった。

「最近、庭師の腕の見せ所であるはずの竹垣にプラスチックの既製品を使ったり、張り石も型が決まっている物を置くだけだったり、淋しい作庭事情と感嘆してました」

夜の週3回、本市にある高等職業訓練校で木造建築を学んでいる。「分野が違い新鮮です。道具を大切に

切にする心や仕事の正確さ、仕上げの美しさが大切。日々研さんを積む毎日ですね」

樹木医や松保護士の資格を持つ。そして、昼の週2回は勢多農林高で造園技術の教壇にも立ち、茶道も習い忙しい毎日だ。

「自分の時間はほとんどありませんね。でも、生徒と接していると若いパワーをもらえて楽しいです。昼は先生、夜は生徒ですね」

職業訓練校はあと2年間通う。建築の技術を吸収しようとする前向きな姿勢には脱帽する。

「庭師は木の個性や植物の特色を見極めるのが重要です」

夢は、後世に残る茶室や茶庭を造ることだ。その実現に向けて一歩一歩進み、日本一の庭師になってほしい。

輝く笑顔で元気にピンシャーン！

2月1日、前橋テラサ元気21で介護予防まつりinnまえばしを開催。元気な高齢者を紹介・表彰する「ピンシャーン！元気コンテスト」やトークショー「元気100歳に聞きました」、「ピンシャーン！元気体操」の実演、「一地区一自慢コンテスト」の表彰式など多彩な催しが、訪れた人たちは、楽しみながら介護予防について学んでいました。



100歳にインタビュー

元気コンテストで優勝

みんなてピンシャーン！元気体操

一地区一自慢の表彰

健康チエツク

若い芽のポエム

昨年度行われた第11回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 おいしいれと私

粕川小6年 牛房 真優さん

私の秘密の場所はおいしいれ
おいしいれの中に入るといろいろ考
える
おいしいれの中はひんやりしてて寒
い
そのひんやりが心を冷静にもどし
てくれる
つめたくなったらイライラは
おしいれが忘れさせてくれる
しーんとして、時計の音がきこえ
てくる

★入選 二つのありがとう

桃川小5年 丸山 沙蘭さん

今日は母の日。
手作りの物と小さなカーネーション
をあげた。
前日、父と兄と私とありがとうを
買いに行った。
ありがとうってむずかしい。
「よろこんでくれないかもしれないな

い。」
そう思うと心にへんなクリのよう
なイガイガがあった。
やっと思つたカーネーション。
ちよつとちよつとばけなカーネーション
だったけど、その花が笑ってい
た。
そして、お母さんにわたした。
「ありがとう」そう言ってくれた
うれしかった。

あと、私があるがどうを言う番だ。
そう思っていたけど、なかなかあ
りがどうという言葉が出てこない。
ありがどうとは、むずかしい。
「ありがとう」

あつ言えた。小さな声だった。
それでも言えたんだ。

母のありがどうからも、あのへん
なクリのようなイガイガは、消え
ていった。
うれしかった。
喜んでくれた。

この時私の心の中に二つのありが
どうがやっと思つた完成していた。

みんなが笑える未来に

前橋テラサで2月1日、「一緒に笑いた
いあなたと」をテーマに、男女共同参画
セミナーを開催しました。講師はフリー
アナウンサーの広瀬久美子さんと落語家
の林家花丸さん。ユーモアあふれる話に、
会場は大きな笑いに包まれました。



貴重な郷土の宝を堪能

市民文化会館で1月22日から2月1日
まで、収蔵美術展が行われました。今回は、
市が収蔵する作品の中から13人の作家の
46点を展示。訪れた人は、郷土ゆかりの
作家が描く美の世界をじっくりと味わい、
芸術への関心を深めていました。

